

授業概要

現代の経済・経営・会計を理解するために
 ー株式会社とは、株式会社が発行する株式とは、株式を売買する証券市場とは何かー

授業計画

第1回	現代経済、企業経営を分析・評価するために何を大学で学ぶべきか
第2回	自己の将来の方向性を考えるために大学生活で何が大切かを考える
第3回	現代経済・企業経営の分析評価力をつけるために日常心掛けることは何か
第4回	現代経済を支える主たる企業形態ー株式会社とはー
第5回	株式会社の経済的特質ー会社はなぜ株式発行をするのかー
第6回	株式は金融商品（株価で売買）の典型である。人はなぜ株式を売買するか
第7回	上場株式会社は簿記・会計を絶対的に必要としている理由
第8回	簿記・会計学の学問の目的・役割を考える。会社の利益等の情報の開示手段
第9回	自己で興味ある上場会社の株価を調べてみよう。その株価は高いか低い
第10回	株式を専門に取引し、株価を形成する証券市場の重要性を勉強しよう
第11回	証券市場における株価の形成の仕組み、証券市場の目的とは
第12回	自己で興味ある会社の財務等情報を集め、株価計算し、議論をしてみよう
第13回	（連結）貸借対照表（B/S）、（連結）損益計算書（P/L）は何を意味するか
第14回	東芝、東京電力の経営状況を分析評価してみよう
第15回	半期学んで、何を得たかを報告・議論する
第16回	総合的な質問時間・レポートの作成方法を学ぶ

到達目標

現代の経済・企業経営の仕組みを株式会社と株式の視点から分析・評価し、報告できる能力育成を目指す。

履修上の注意

前もって資料を渡すので、よく読んでくること。毎回遅刻せずに出席するのは当然のことである。

予習・復習

前もって資料を渡すので、よく読んでくること。3回ごとに勉強した内容を、自己の意見を入れレポートにまとめ出させていただきます。

評価方法

課題提出 30点、報告内容 20点、最終課題レポート 50点

テキスト

奥村 宏著『株価のからくり』教養文庫 社会思想社 1992年4月30日 480円
 柴田和史著『株式会社の基本』日経文庫 日本経済新聞 2002年4月8日 1000円
 その他適宜紹介します

授業概要

いわゆるアベノミクスのもとで、円安が進み、株価も上昇してきました。景気も上向き、物価も上昇してきています。長かった超円高・デフレ不況もようやく終わることが期待されています。

本演習、戦後の日本経済と金融、資産バブル、平成大不況、政府の経済政策、日本銀行の金融政策について、くわしく指導します。

授業計画

第1回	講義の概要
第2回	景気がよくなっているのか
第3回	GDPとはなにか
第4回	戦後二番目の好景気というが
第5回	どうして賃金が上がらない
第6回	どうして物価が上がらない
第7回	1千兆円の政府の借金がある
第8回	返せないとハイパー・インフレか
第9回	企業は400兆円も儲けてる？
第10回	福祉予算はますます膨れ上がる
第11回	日本銀行のマイナス金利とは
第12回	預金すると利子を取られる？
第13回	銀行経営は悪化の一方
第14回	オリンピック恐慌は来るか
第15回	日本経済のゆくえは
第16回	試験

到達目標

デフレが長期化した要因を理解したうえで、日本銀行の異次元緩和によって、本当にデフレを克服できるのかを明らかにします。

アベノミクスというものの概要を理解してもらうことを到達目標としています。

履修上の注意

演習をおこなっている間に、いよいよ、アベノミクスが成功するか否かが、見えてくるはずです。

ですから、新聞をよく読むことや日々のニュースに関心を持ってください。

予習復習

演習では、資料や新聞記事などを読みます。

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には、復習してください。

評価方法

レポート（70%）、演習での発言（30%）などで評価します。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配ります。

授業概要

演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事になる。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれに考え、有意義な大学生活が過ごせるようになって欲しい。

授業計画

第1回	大学生活に慣れる①（自己紹介の文章作成報告、履修計画の作成）
第2回	大学生活に慣れる②（大学での授業のあり方や規則、大学のホームページの利用）
第3回	授業の受け方を体得する①（ノートのとり方、テキストの読み方）
第4回	授業の受け方を体得する②（レポート作成法）
第5回	大学で学ぶ意味を考える①（大学での目標、学力調査）
第6回	企業について知り、意見をまとめる①（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告）
第7回	企業について知り、意見をまとめる②（企業経営やプロジェクト運営、意見の報告）
第8回	時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる①（主要な時事問題、論者の意見をまとめる）
第9回	時事問題を読み、自分の意見を文章にまとめる②（新聞の社説等を使って、自分の意見をまとめる）
第10回	わからない事項を調べる（図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法）
第11回	意見を発表し、討論する①（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する）
第12回	意見を発表し、討論する②（関心のあるテーマを調べ、レジュメにして作成し、報告する）
第13回	自分の将来について考える①（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第14回	自分の将来について考える①（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第15回	自分の将来について考える①（自分の適性を知り、将来の進路について考える）
第16回	総括

到達目標

- 自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- 政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知る。
- 大学での学び方を体得する。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。なお、学外活動を行う場合がある。

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取り組み、課題の提出状況、レポートまたは試験により総合的に評価する。

テキスト

- 開講時に指示する。
- 必要に応じて、資料を配布する。

授業概要

本演習では、ヒーリング・ビジネスと健康について理解できるよう指導する。現代社会はストレス社会と言われている中、健康阻害要因には、人間関係などを含む社会生活におけるストレスが原因のものも少なくない。本演習では、ヒーリング・ビジネスの中でも特にアロマテラピーに関する理解を深めながら、健康ビジネスが社会にとってどのように貢献可能であるかについて理解できるよう指導する。

授業計画

第1回	ストレスの定義・学説
第2回	健康とは？病気とは？
第3回	様々なストレス
第4回	人間関係、社会生活とストレス
第5回	ストレスと生体反応、ストレス関連行動
第6回	アロマテラピーとは？
第7回	植物療法の歴史
第8回	アロマテラピーのメカニズム
第9回	精油とは？
第10回	精油の種類
第11回	精油の効果と効能
第12回	アロマテラピーの活用
第13回	アロマテラピーの発展
第14回	リラクゼーションとストレスの関係性
第15回	アロマテラピーとセルフケア
第16回	試験

到達目標

- ・ストレスについて説明できる。
- ・ストレスやストレス関連行動などについて説明できる。
- ・ストレス対処方法について理解を深め、セルフケアの重要性についても理解できる。
- ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が向上する。
- ・文章作成、資料作成能力が向上する。

履修上の注意

休まず積極的に参加すること。

予習復習

事前に教科書をよく読んで、予習してくること。

評価方法

発表点（25点）、レポート点（25点）、試験（50点）

テキスト

和田文緒「アロマテラピーの教科書」新星出版社、1500円

授業概要

テーマ：スポーツとマーケティングの出会い

スポーツとマーケティングの最も基礎的な考え方を勉強し、その関係について考えます。スポーツといった、誰にでもわかっているはずの「常識的な言葉」の意味もおろそかにせず、ひとつひとつをきちんと自分たちで点検し、自分の頭で考えることの楽しさを身につけたいと思っています。

授業計画

第1回	演習の概要
第2回	スポーツって何だ(1)：スポーツと体育
第3回	スポーツって何だ(2)：スポーツにおける「近代」
第4回	スポーツって何だ(3)：メンタル・スポーツはスポーツか
第5回	スポーツって何だ(4)：eスポーツと2024年オリンピック・フランス大会
第6回	スポーツって何だ(5)：スポーツにおける営利と非営利
第7回	マーケティングって何だ(1)：メーカーと顧客の関係
第8回	マーケティングって何だ(2)：顧客のニーズ・欲求とは何か
第9回	マーケティングって何だ(3)：顧客満足は万能か
第10回	マーケティングって何だ(4)：メーカーとは誰のことか
第11回	マーケティングって何だ(5)：マーケティングにおける営利と非営利
第12回	スポーツマーケティングって何だ(1)：1984年ロサンゼルスオリンピックとスポーツの商品化
第13回	スポーツマーケティングって何だ(2)：「観るスポーツ」と「するスポーツ」のマーケティング
第14回	スポーツマーケティングって何だ(3)：メガスポーツイベントのマーケティング
第15回	スポーツマーケティングって何だ(4)：スポーツチームのマーケティング
第16回	試験

到達目標

スポーツ、マーケティング、スポーツマーケティングの最も基本的な概念を理解できることを到達目標としています。同時に、それぞれの概念について、自分自身で調べ、考える力を身につけることを目指したいと思います。

履修上の注意

演習では、グーグルなどを使ってインターネットで調べてくるという課題を出します。スポーツイベントや組織はグローバル化していますので、日本語のウェブサイトだけでなく、英文のウェブサイトを調べることを嫌がらない態度が望ましいといえます。なお、演習には必ず出席して下さい。30分以内の遅刻は認めますが、遅刻3回で欠席1回分にカウントされることに注意してください。

予習復習

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。また、予習・復習のためにネットなどで調べることは必須です。

評価方法

演習への出席を前提とし、最終試験、および演習でだされた課題の遂行の状態によって評価します。演習では、積極的に疑問や意見を述べる学生、および英文資料をいやがらない学生は、高く評価されます。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配り、またインターネットで調査したウェブサイトを利用します。

授業概要

1年次の教養演習は、2, 3, 4年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは、何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく、学生自らが何らかの目的あるいはテーマに対して、何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。

そこで、教養演習 I では「大学 4 年間の出発点としてのキャリア」をテーマとする。

授業計画

第 1 回	「キャリア」について学ぶことの意義
第 2 回	働く意味を考える (お金)
第 3 回	働く意味を考える (労働)
第 4 回	キャリアとは?
第 5 回	自分を見つめ直す
第 6 回	自己 PR を考える
第 7 回	社会的課題を知る
第 8 回	社会人基礎力を理解する
第 9 回	社会人基礎力を身につけるための方法を考える
第10回	近年の就活状況を知る
第11回	職業について考える
第12回	職種を知る
第13回	企業を知る
第14回	業界を知る
第15回	まとめ
第16回	定期試験

※ 人数等により進捗と内容は随時調整します。

到達目標

自らの意見を文章で正しく伝えることができる、また発言で他人に伝えることができるようになる。

履修上の注意

テーマは上記のとおりだが、到達目標に示したように、講義ではなく演習なので、聞くだけの内容を考えていない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的に発言等をしてもらう。

予習・復習

授業内容に応じた課題を予習し、他人の意見等を聞いてまとめる復習を予定している。

評価方法

平常点 45%・定期試験 55%程度で評価する。

なお、既定の出席回数に満たない場合には、原則として単位を認定しない

テキスト

未定。

参考文献は適宜紹介する。

授業概要

自分で問題を発見し、自分で調べ、考えるという勉強の仕方を学ぶ。

大学の授業の特徴は、答えを自分で探すことにあり、自分なりの答えをまとめることにある。こうした勉強の仕方は、社会人になった時、自分で企画を立て自分で実践する際にも重要なことである。

授業計画

第1回	演習の運営について
第2回	経済学の基本的な考え方
第3回	今日の経済問題
第4回	経済記事を読む
第5回	自分の問題関心について
第6回	資料の調べ方
第7回	自分のテーマにあった文献を探す
第8回	文献の紹介
第9回	文献を検討する
第10回	文献について整理して報告する
第11回	報告についての討議
第12回	足りない文献を探す
第13回	自分のテーマを明確にする
第14回	テーマについてまとめて報告する
第15回	検討会
第16回	課題レポートの提出

到達目標

問題関心を明確にして自分で調べ、考え、まとめる力を養う。

履修上の注意

問題関心を明確にすること。積極的に発言すること。

予習・復習

授業中に与えられた課題を行うこと。

評価方法

演習における報告と発言による。

テキスト

授業中に指示する。

授業概要

現在の日本経済の全体状況を概観し、低い経済成長率、デフレ体質などの日本経済が直面しているさまざまな課題の原因や背景を知るとともに、その解決のために必要な経済政策や企業努力について知る。

そのために「日本経済新聞」の多くの記事をはじめとして、さまざまな記事やデータを見る。

とりわけ、消費が低迷しているという点を重視して、賃金や所得、企業の経営戦略とどう関係しているかなどをみてゆく。

授業計画

第1回	はじめに
第2回	日本経済の低迷の実態と原因 (概観)
第3回	日本経済の低迷の実態と原因 (GDP統計)
第4回	日本経済の低迷の実態と原因 (世界との比較)
第5回	日本消費動向・低迷の実態と原因 (所得水準低下)
第6回	日本消費動向・低迷の実態と原因 (所得水準と投資の悪循環)
第7回	自動車の消費動向 (国内生産台数等)
第8回	自動車の消費動向 (海外生産台数等)
第9回	電気製品の消費動向 (日本製品の国内消費)
第10回	電気製品の消費動向 (日本製品の国内消費)
第11回	大型スーパーの不振
第12回	元気な流通企業
第13回	ネット販売の動向 (概要)
第14回	ネット販売の動向 (将来性)
第15回	まとめ
第16回	

到達目標

日本経済への「入門」をおこない、日本経済の抱えている諸問題を、消費の低迷という点から理解することに興味を持ち、基本的な知識を獲得することを目指す。

履修上の注意

高校生まではなじみが無かったと思われる経済記事になじみ、常に目を通す習慣を見につるよう努めて欲しい。

予習・復習

講義で取り上げることが出来るのは、必要な情報のごく一部でしかない。取り上げることが出来なかった貴重な記事や情報については、講義中に指摘するので、各自で読むことが不可欠である。

評価方法

講義での発表や議論に対する取り組みの積極性により評価する。

テキスト

「日本経済新聞」の記事、日経BPに収録されている「日経ビジネス」などの記事をはじめとして、さまざまな研究機関が公開している記事・研究論文などをネットからダウンロードし、これを共有し教材として議論する。

授業概要

演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、そして読むこと、調べること、書くこと、発表することなど、今後の学修に必要なスキルを身につけることにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事である。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれ考え、有意義な大学生活が過ごせるようになってほしい。

授業計画

第1回	オリエンテーション（授業内容、授業方法、評価方法などの説明）
第2回	大学生活に慣れる① 履修計画を立てる
第3回	大学生活に慣れる② 授業のあり方、学内の規則・設備を知る
第4回	授業の受け方を体得する① 講義ノートの取り方
第5回	授業の受け方を体得する② テキストの読み方
第6回	授業の受け方を体得する③ レポート作成法
第7回	自らの学力を調べ、大学で学ぶ意味を考える（学力調査）
第8回	図書館ツアーに参加し、文献の検索方法を覚える
第9回	読書発表会①
第10回	読書発表会②
第11回	グループ研究とディベート①
第12回	グループ研究とディベート②
第13回	グループ研究とディベート③
第14回	グループ研究とディベート④
第15回	春期の総括：初めての大学生活を振り返る
第16回	期末試験

到達目標

- 1、大学の施設・設備を有効に活用できるようにする。
- 2、自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- 3、大学での学び方を体得する。

履修上の注意

無断欠席・遅刻、授業中のスマホいじり、私語、居眠りなどの行為に厳しく対応する。

予習・復習

与えられた課題の発表についてしっかり準備することを求める。

評価方法

授業態度、積極性、発表内容、期末試験を総合して評価する。

テキスト

『大学生学びのハンドブック』（世界思想社）を使う。プリントを配布するので、購入は不要。

授業概要

本教養演習では、2年次以降から本格的に始まる経済学や経営学の勉強に備えて、「経済」とは何か、「経営」とは何か、について考える場を提供したい。そのために一番良い方法は、経済新聞を読むことであろう。経済新聞には、前日までに発生した経済の動きが迅速に報道されており、またそれまでに発生した経済上の事件に関して簡単な解説も掲載されている。

また、証券市場が開設された翌日には、その市場での取引の様子を株式欄を見ることで経済の状況を知ることができる。どうせ就職活動を始めるところには、経済新聞を読みこなしていなければならないので、一年次の段階でどのように経済新聞を読みこなすべきか、について知っておいたほうが良いように思う。

授業計画

第1回	はじめに（本演習の進め方）
第2回	経済新聞の歴史をたどる
第3回	経済新聞に掲載されている記事とは何か
第4回	自分の興味のある産業の記事を読んでみよう
第5回	実物取引（金や石油）の記事はどこにあるか
第6回	経済新聞における文化欄の役割
第7回	経済新聞に掲載される小説の特徴
第8回	株式欄の読み方（1）
第9回	株式欄の読み方（2）
第10回	株式欄の読み方（3）
第11回	株式会社とは
第12回	経済において株式市場が重要なわけ
第13回	どのような会社の株が良い株なのか（1）
第14回	どのような会社の株が良い株なのか（2）
第15回	株式市場の発展に果たした経済新聞の役割
第16回	試験

到達目標

本演習の目的は、経済新聞読みこなすことによって、経済や会社がどのような原理や原則で動いているか、について知る能力を蓄えることである。知りたい情報が経済新聞のどの部分に書かれているか、を理解できたら目標は達成されたといえる。

履修上の注意

経済新聞を自宅ですべて持っている人は、その新聞を持ってきてもらいたい。自宅ですべて持っていない人は、駅売りのその日の経済新聞を買って持ってきてもらいたい。

予習・復習

経済新聞をよく読むこと。できれば自宅ですべてもらい、毎日目を通せば、十分な予習と復習になる。

評価方法

毎回の授業で受講者に多く質問をするので、それに的確に答えられるかどうか、で判断する。また、節目節目で小テストをすることも考えられる。

テキスト

その日の経済新聞を持ってきてもらいたい。どの経済新聞であるかは、問わない。ただし、私は一番よく読まれている経済新聞を持参するので、同じものであれば理解はしやすいものと思われる。

授業概要

演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事になる。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれに考え、有意義な大学生活が過ごせるようになって欲しい。

授業計画

第1回	自己紹介の文章を作成し、報告する。履修計画を立てる。
第2回	大学での授業のあり方や規則、学内の設備などを知る。大学のホームページを利用する
第3回	ノートのとり方を練習する
第4回	テキストの読み方を学ぶ
第5回	レポート作成法を学ぶ
第6回	大学に入って何を学びたいかを考える。
第7回	自らの学力を調べる
第8回	時事問題を読み、その内容を理解し、自分の意見を文章にまとめる
第9回	新聞等の教材によって現在の主要な時事問題を知る。
第10回	社説等を使って論者の意見に賛成か反対かを明確にしながら、自分の意見をまとめる。
第11回	図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法を学ぶ
第12回	大学でこれから学びたいと思う課題について、自分の意見をまとめる
第13回	自分の適性を知り、将来の進路について考える。
第14回	資格について知る
第15回	自分が最も関心のあるテーマを調べ、それをレジュメにして作成し、報告する。
第16回	期末テスト

到達目標

- 大学の施設・設備を有効に活用できるようにする。
- 自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- 政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知る。
- 大学での学び方を体得する。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。なお、学外活動を行う場合がある

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取組み、課題の提出状況、レポートまたは試験により総合的に評価する

テキスト

指定しない

授業概要

本演習では、「簿記」の学習を通じて資格試験などの**勉強方法のコツ**を指導します。在学中に公務員・教員や資格試験に合格したい学生は受講してください。大学で何か資格ぐらいは取得しておきたいと思う学生は沢山います。では、どうすれば資格試験に合格できるのか。この「演習」ではその勉強方法を体得してもらいます。試験勉強の要点は、**1.合格の目標を明確にすること。2.自己講義を何度も反復すること。3.過去問題集の反復学習をすること。**この3点にあります。本講では、卒業後に県庁や市役所、財務専門官、国税専門官、高校教員、公認会計士、税理士の資格合格者、そして大手金融機関への就職希望者を対象に指導いたします。

授業計画

第1回	ガイダンス：15回の演習の概要について説明します。
第2回	試験勉強のコツについて / エクステンションセンターの上手な受講方法とは？
第3回	目標の明確化 ＝11月の日商簿記3級合格 / 学習カレンダーに 勉強時間を「見える化」 する
第4回	論点を自分で説明できること（自己講義） / テキストと問題集の使い方の相違
第5回	簿記一連の流れを頭に叩き込み / 勉強時間は早朝にするのが一番である
第6回	貸借対照表と損益計算書の勘定科目を反復音読し、その構造を筆写し完璧に暗記しろ。
第7回	情報メディアセンターを使い倒せ・・・個別ブースを朝から占有し勉強の場所を確保しろ！
第8回	仕訳のコツ：仕訳は原因と結果で考える。簿記は仕訳で始まり仕訳で終わる
第9回	仕訳と転記の基本：仕訳を素早く転記する練習をする、 反復学習 とにかく耐える
第10回	中間試験実施：成果を出す勉強方法のコツとは？ 早くできないのはできないのと同じ。
第11回	テキスト300頁を読み込むコツとは →目次把握 →速読3回 →自己講義 →辞書機能
第12回	問題集を完遂せよ・・・ やさしい問題から解答解説をそのままノートに写せ
第13回	キャリア支援センターの職員と仲良くなろう→ 就職内定のノウハウはここにあり・・・！
第14回	総合問題に挑戦（1）8ケタ精算表をゲーム感覚で解答しよう。とにかく早く正確に解け。
第15回	総合問題に挑戦（2）合計残高試算表を得意分野にすれば合格は近いぞ
第16回	定期試験実施

到達目標

勉強方法のコツを体得すること。1日に3時間、1週間で15時間、1か月で60時間の勉強を習慣として身に着けること。**テキストの目次や論点を自分で説明できるようになること。「分かる」と「できる」ととは違います。「問題を早くかつ正確に解答する」には、反復学習をすることです。**

履修上の注意

1. 春期「初級簿記」を履修登録してください。
2. エクステンションセンターの「日商簿記検定3級講座」を受講すること。
（「日商簿記検定3級試験」の全国平均合格率：2017年2月実施47.4%、6月実施50.9%、11月実施40.3%）
3. Campusノート(コクヨ)と電卓12桁を用意すること。（スマホは不可）
4. 簿記を学習する友人を作ること。一緒に勉強し自己講義を聞いてもらうこと。

予習・復習

- ・簿記の「教科書」と「問題集」を毎日3時間勉強してください。合格者はみんなもっとやっている。
- ・試験勉強は、自分との戦いです。あきらめないで続けることが大切です。

評価方法

- ・授業への参加意欲と中間試験、定期試験で総合評価をします。
- ・授業態度不良者は「不可」とする。

テキスト

1. 滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の教科書 日商3級商業簿記 第6版』TAC出版
2. 滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の問題集 日商3級商業簿記 第6版』TAC出版

授業概要

『目的から考える大学での学び方』

柴田ゼミはマーケティングを学ぶゼミである。マーケティングとは「モノやサービスを売るための仕組みをつくること」である。これは学生の皆さんが就職する様々な企業において非常に重要な考え方であるとともに、皆さんの人生を豊かにする学問でもある。そこで柴田ゼミでは学年の進行とともに1年春期教養ゼミ：大学での学び方とアイデアの生み出し方、1年秋期教養ゼミ：事業計画の作成から学ぶ社長の考え方、2年次基礎ゼミ：働くこと、卒業生が多く就職する小売業のマーケティング、3年次演習ゼミ：マーケティングの応用と卒業論文のテーマ決定、4年次卒業論文へと進めていく。このような流れの中で、座学だけでなく学外の実践の場から自分の感覚で企業やビジネスを感じ、学んでほしい。

自分で考え、それをまとめて整理し、文章や口頭でプレゼンテーションして第三者に伝えること。これを繰り返すことで、学んだ知識を実際の社会で応用する力に変えていってほしい。

授業計画

第1回	オリエンテーション（授業の進め方）
第2回	自己紹介／履修登録について①
第3回	大学生活の目標を決める／履修登録について②
第4回	ゴールから考える－卒業と就職と① 業界分析の基礎／企業分析
第5回	まとめ（小活①）
第6回	自己分析をしてみる／情報メディアセンターを活用する
第7回	ノートの取り方／メールのマナー／調べる習慣をつける
第8回	ニュースを見る－新聞、TV、インターネット
第9回	企業とは何か／社長とはどういう人か
第10回	まとめ（小活②）
第11回	アイデアを考えてみる①－総論
第12回	アイデアを考えてみる②－拡散と収縮
第13回	アイデアを考えてみる③－顧客ニーズと課題の分析
第14回	アイデアを考えてみる④－ビジネスモデルキャンバスを作成する
第15回	まとめ（総括）
第16回	課題レポートの提出

到達目標

大学ではどうやって勉強していけばよいのか。その基本的考え方を「何故大学に進学したのか」「どうすれば卒業できるのか」「就職するとはどういうことか」といったテーマを題材としたグループディスカッションを通じて学び、その上で、経済経営学部で学ぶ対象となる「企業」や「社長」について自分の言葉で話せるようになること。

履修上の注意

大学では「自分で考え、発言する」ということがとても大切である。大学を卒業したらこんなことをやりたい等、自分なりの夢を持っている学生を歓迎する。

講義中の私語、携帯電話や音楽機器等の使用、食事は禁止する。公共交通機関の遅れ以外の遅刻については原則認めない。守れない者には厳しく対処する。また無断欠席は認めない。

学外授業に参加してもらうことがある。

予習・復習

レジュメは各自インターネットからダウンロードして準備してもらう。利用方法は講義で説明する。

毎回の講義の中で事前に課題（レポート等）を指示する場合がある。

評価方法

授業態度（50%）、提出課題の内容等（50%）により、総合的に判断し評価する。

テキスト

テキストや参考文献は必要に応じて演習中に指示する。

授業概要

本演習は、経営学専攻の学生にとっての「入門の入門」と位置づけ、経営学の基礎を概括的に修得するよう指導する。演習はテキストを用いて進めるが、1 年次前期の学生が履修生となることを勘案し、テキストの読み進め方、レポートの要領、議論への参加方法、講義中のノートのとり方等、基本的事項にも力点を置いて指導する。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進める習慣を身につけることは重要であり、履修生にはタイムリーな話題を提供して演習の活性化を行う。

授業計画

第1回	ガイダンス —大学での経営学の学習方法—
第2回	企業の理解
第3回	企業の内部構造
第4回	コーポレート・ガバナンス
第5回	環境変化と企業の対応
第6回	企業経営と経営理念
第7回	経営戦略とは何か
第8回	事業システムの理解
第9回	マーケティングの理解
第10回	企業組織をどうつくるか
第11回	組織の中で人を動かす
第12回	財務と会計の役割を理解する
第13回	企業評価
第14回	企業環境の変化と新しい経営学
第15回	演習のまとめ
第16回	期末試験

到達目標

本演習の到達目標は、履修生に経営学の概要を理解させるとともに、履修課程を通して大学での学びの姿勢や技術を修得させることである。社会人経験のない学生が経営学の基本的事項を、極力臨場感をもって修得することができるよう、テキスト以外の教材、資料からできる限り頻繁に今日的话题を引用する。

履修上の注意及び予習・復習

講義後、テーマをもとにテキストの担当箇所について議論するにあたり、それをリードする役割を順次履修者に求める。履修者は積極的に演習に参加することが求められるので、議論のリーダーでない場合も事前にテキストの該当箇所を読んで参加することが必要となる。

遅刻はやむを得ない理由がある場合には配慮する。

評価方法

担当するテーマに関する発表内容、準備状況、議論への参画度等、演習に対する取り組み度合いを 70%、期末試験を 30%の割合で評価する。期末試験は学期中に取り上げたテーマに関して記述式で解答を求める。出題の意図を理解し、演習で学んだ内容を踏まえて論理的に解答しているかどうか重点を置いて評価する。

テキスト

小倉行雄、齊藤毅憲著『経営学入門』（放送大学教育振興会、2014年）。